

棚田 ライクテラス

第15号 1999.9.15
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるさとネットワーク
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202
TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-9983

特集

棚田パノラマ体験展

大盛況

7万3千人の動員!!



1999年7月27日(火)~8月8日(日)
東京/日本橋三越本店7階催物会場

主催：全国棚田(千枚田)連絡協議会

企画制作：ふるさとくらはん

後援：農林水産省・文部省・建設省・自治省・環境庁・国土庁・東京都・東京都教育委員会・JA全中・JA全農・JA全共連・農林中央金庫・JA東京中央会・全国土地改良事業団体連合会・朝日新聞社・経済団体連合会

この度、全国棚田連絡協議会主催の「棚田パノラマ体験展」が去る7月27日~8月8日まで開催され、多数の入場者が来訪し盛況のうちに無事終了したことにつきまして心よりお祝い申し上げます。

今回の棚田パノラマ体験展は、全国各地の棚田のパネルや特産品の展示、棚田の実物大模型による農作業の実演、棚田に生息する生き物の展示、棚田の国土保全機能を視覚的に理解できる模型の展示などを通じて、普段、棚田に接する機会の少ない都市生活者の方々に棚田の景観の美しさ、棚田の持つ多面的機能の意義、棚田の維持・保全の大変さなどを理解していただけた絶好の機会となつたものと思います。

農林水産省におきましては、棚田の保全を図るために、地域の条件に応じたきめ細かな棚田の保全整備を緊急的に実施する「棚田地域等緊急保全対策事業」を平成9年度に、棚田の持続的な維持・保全のための都市生活者の方々の参加も可能な共同活動への支援を行

この度、全国棚田連絡協議会主催の「棚田パノラマ体験展」が去る7月27日~8月8日まで開催され、多数の入場者が来訪し盛況のうちに無事終了したことにつきまして心よりお祝い申し上げます。

今回の棚田パノラマ体験展は、全国各地の棚田のパネルや特産品の展示、棚田の実物大模型による農作業の実演、棚田に生息する生き物の展示、棚田の国土保全機能を視覚的に理解できる模型の展示などを通じて、普段、棚田に接する機会の少ない都市生活者の方々に棚田の景観の美しさ、棚田の持つ多面的機能の意義、棚田の維持・保全の大変さなどを理解していただけた絶好の機会となつたものと思います。

農林水産省におきましては、棚田の保全を図るために、地域の条件に応じたきめ細かな棚田の保全整備を緊急的に実施する「棚田地域等緊急保全対策事業」を平成9年度に、棚田の持続的な維持・保全のための都市生活者の方々の参加も可能な共同活動への支援を行います。

この度、全国棚田連絡協議会主催の「棚田地域水と土保全基金事業」を平成10年度に創設し実施します。棚田は、先人たちのたゆまぬ努力と工夫の積み重ねにより長い時間をかけて形成され、農家や地域の方々の活動により耕作され続けることにより、棚田や周辺環境が維持されてきました。このような活動を評価するため、本年7月26日、「日本の棚田百選」を認定しました。この認定により棚田を保全している方々の活動が一層活発化され、また、広く国民に棚田への関心が深まれば幸いと思います。

今後の日本の食料政策、農業政策、農村政策の根幹となる「食料・農業・農村基本法」が本年7月12日に成立しました。この法律においては、棚田地域を有する「中山間地域等の振興」が明確に位置づけられており、今後、これら中山間地域の農業振興や、地域活性化のための施策の充実・改善について検討していくこととしています。今後とも、ご支援お願いします。

農林水産省構造改善局

開発課長

元杉 昭男

棚田パノラマ体験展の意義

「棚田パノラマ体験展」を終えて

全国棚田（千枚田）連絡協議会会長・新潟県安塚町長
矢野 学

もつとも日本らしい原風景が棚田（千枚田）であり、都市に住む多くの人々が、かつての食糧難に棚田から生産される米によつて生を与えられ、現在は、学習、観光、生産の場など多様な顔をつくつて

トを開催しています。そして、今年は「棚田パノラマ体験展」を企画、盛大のうちに終了することができました。関係各位と協賛して下さった関係機関に心から感謝申し上げます。

「棚田パノラマ体験展」は730人
00人が訪れ、にぎわいました。
新聞、TV、ラジオ等、連日マツ
コミ報道があり、大いに話題とな
りました。

ノブローテューサー ひらつか順子
います。日本橋三越本店での「棚田パノラマ体験展」は、都会のド真ん中で棚田を体感できるようなスケールのイベントを行い、一気に棚田を国民的な常識に近づけた。いと考え、企画されたものでした。

の前に立つコーナーです。そこには、今年の棚田サミットの会場である三重県紀和町の丸山千枚田を背景に、右手には水が循環する本物の石積みの棚田を三段に組み、左手には里山をイメージした雑木



大パノラマ写真の前のミニステージで、工作教室に参加した子どもたちと一緒に行った「手づくり楽器ライブ」

まさに「パノラマ的」なイベント

日本橋三越本店販売促進部部長
升野 高東

百貨店における催物の歴史は古く、特に三越は明治30年代後半から催物への取り組みをはじめました。日本、世界の文化を紹介するだけでなく、技術の伝承、後継者の育成、優れた芸術の啓蒙、地方文化の紹介など、広く社会貢献に結びつく催物も併せて行つてまいりました。

屋上に設置した田んぼでの田植えや、三越劇場での棚田シンポジウム、ミュージカルの上演など、単なる展示にとどまらない、まさ

会場は活気にあふれ、子どもたちの笑顔、大人たちの真剣なまなざしが行き交う盛況なイベントとなりました。さまざまな催物を行ってきた中でも、実に印象深い催物でした。

会場には、中川農林水産大臣
松下政務次官、文化庁の林田長良官
国会議員、棚田学会の多くの学者
や高円宮妃殿下様もお立ち寄り
さり、練習エリアの水生生物や

朝日新聞本社2Fギャラリーでの「'99棚田フォトコンテストⅡ」入賞作品の写真展と、東京駅丸の内コンコースでの、JR東日本による宣伝、展示が実現し、好評をいただきました。

企画構想の段階から農林水産省はじめ全国棚田連絡協議会役員、事務局の方たちには力をつくしていただきました。そして後援団体、協賛協力企業、団体個人のみなさまにも無理なお願いを致しましたが、グローバルな視点から各自に応援の体制をとつていただきまし

大スクリーンの大迫力で

田の四季を立体化したジオラマなども楽しんでゆかれました。



棚田地域の魅力と豊かさを伝えたくて

樂習エリア・コーディネーター 石井里津子

「そこは棚田わくわく探険ワード

ました。

新潟県大島村産業振興課

「先生」と 呼ばれた一 日

やつぱり棚田はエライ! —「棚田。パノラマ体験展」感想記

神戸大学農学部 教授 内田 一徳

「そこは棚田わくわく探險ワールド」。それが、このエリアの基本的なイメージでした。そして、写真だけでは伝えきれない棚田地域の魅力や豊かさを伝えることが目的でした。そこで、入口には、間伐材でつくった巨大なイネや生き物の像、木の彫刻などが設置され、子供たちが喜んで写真撮影していました。

さらに、「棚田の四季とくらし」を立体再現したジオラマと、棚田が洪水を防ぐ等の役割を果たしていることがわかるジオラマ「緑のダム」は、実にすばらしく、人々の興味をそそりました。

「生きもの回廊」では、棚田に生きるタガメ、ゲンゴロウなど20種類以上の水生昆虫などが勢揃いし

また、あせの構造のハネルや
みのや背あてなどの民具の試着
ビデオシアターを用意したこと
で、さらに深く畠田に出会つてい
ただけたようです。

つる人々でごったがえした「生きものの回廊」。

が参加してくれました。棚田地域からも講師の方々が来てくださったこともあり、さまざまなクラフトに参加者は夢中になりました。工作を通して棚田に触れ、嬉々として帰つていかれる姿に担当者一同、うれしくなったものです。

今回のワークショップ（工作教室）で、素朴な自然の素材を生かしたクラフトワークがみなさんには親しみをもつて受け入れられ、関心を示していただいたことを大変うれしく思いました。

棚田の里のありのままの姿を見つめ直し、その誇りと果たすべき役割を改めて考えることができた素晴らしいイベントでした。ありがとうございました。

12月間中2日間、都会の子どもたち約100人に「あけびつる細工」を体験していただきことができました。初回には村の名人と役場職員の体制で臨みましたが、2回目は役場職員が、急いで名人から秘技を伝授してもらって、当日の本番に出向きました。スタッフのみなさんから「先生」と紹介され、何だか照れくさいような、そのくせちょっとといい気分になつていても事実でした。

「棚田パノラマ体験展」の導入エリアで行われていたワークショップ（工作教室）に参加しました。大島村で以前から伝えられている「あけびつる細工」を紹介させていただきました。

8月3日は残暑の一日であつた。ふき出す汗をハンカチでぬいながら、エスカレータで会場に向かう途中、私はこんな疑問をとつた。「こんな暑い日にデパートの棚田展示なんか見に来る人がいるのか？」よっぽどの閑人か、物奥様だけだろう。会場へ足を踏み入れた私は眼を疑つた。

いく。さすが体験展と銘打ってい
るだけあって凝った展示だ。棚田
を愛する多くの人々の愛情がこも
った、わかりやすい説明に多くの
人がひきつけられているようだっ
た。

ミニステージでのトークショード
『棚田の生きものにさわろう』コ
ーナーにも、開演前から多くの親

子が待ち構えている。トーケンショ
ーがはじまると、さらに人が増え、
子どもたちといっしょに、お母さ
んたちも、昔にかえつてタガメや
サワガニに群がっていた。

この展示に対し、「このまま終
わるのはもったいない。どこか別
な場所でも展示をすべきだ。」と
いうのが私の感想だ。さらに、棚
田はやつぱり多くの人を魅了する
『日本の原風景』であり、これを
小中学生の農業教育の場として利
用すべきだと強く感じた。

協賛：凸版印刷㈱・東京ガス㈱・安田火災海上保険㈱・王子製紙㈱・東紀州体験エフエスタ実行委員会（三重県）・いすゞ自動車㈱・伊藤忠テクノサイエンス㈱・イマジネーションギャラリー・自然文化学校プロジェクト・㈱HRI・オリンパス光学工業㈱・花王㈱・近畿日本ツリーストックラブリズム事業本部・栗田工業㈱・月桂冠㈱・コスマ石油㈱・コニカ力㈱・地元とともに信用金庫・日鉄鉱業㈱・㈱ファームイン・富士写真フィルム㈱・松下電器産業㈱・明治乳業㈱・山崎製パン㈱・ヤマト運輸㈱・㈱ユーパース・リコー・ヒューマン・クリエイツ㈱・京王観光労働組合・（財）サンワみどり基金・JA新潟県連・首都圏コープ事業連合・JUON（樹恩）NETWORK・（社）中央酪農ミルククラブ・（財）21世紀村づくり塾・（社）農山漁村文化協会・徳島県山城町協力：JR東日本・農業工学研究所・農村環境整備センター・天城工芸社

◇宮崎県・栗駒町 丸森町◇千葉県鴨川市
◇新潟県・安塚町 松之山町 大島村 高柳町 山古志村◇長野県・更埴市 飯山市
◇富山県・氷見市 八尾町◇石川県・輪島市 珠洲市◇福井県・越前町 高浜町◇岐阜県・恵那市◇三重県紀和町◇岡山県中央町
◇鳥取県・岩美町 若桜町◇山口県油谷町
◇徳島県・上勝町 井川町◇高知県梼原町
◇福岡県・星野村 浮羽町◇佐賀県西有田町◇長崎県・波佐見町 千々石町 福島町
南有馬町◇宮崎県・高千穂町 日之影町
五ヶ瀬町◇鹿兒島県粟野町

岐阜県恵那市

取材・文・石井里津子

石積み棚田と暗渠、
屈強な先人たちの石との
闘いが刻まれた地域

石の中に土がある

9 m)と権現山(866.8 m)のあいだを流れる坂川流域に開かれた地区である。現在、34戸の農家が、標高620 mから430 mの急斜面一帯を約14 ha耕作している。

「かつての庄屋である酒屋さんのところの石垣は、お金をかけて職人さんを雇つたんだね。されど、いだね。表面がでこぼこしてない。でもほんどのところは見様見真似で農家が自分で積んだんだと思ひますよ」。

実際、見事に石積みされているところは、石垣の上に立ち、足下をのぞくと、石なのでこぼこが見えないばかりか、地面に垂直直か、もしくは反るようにならねばならない。田のイネが見えるばかりである。

さらに反るように石を組むことは、田の面積を広くするだけでなく、石積みの強度を増すためなのだと教えていただいた。

棚田の周囲をぎっしりと固める石の圧倒的な存在感に、石と水を巧みに利用し対話し続け、

い前から、大きな石は機械入ってね。中には2坪ぐらいもある石もあつたんですよ。

石が多い地区ゆえ、かつては肥料や牛のエサ、燃料にする草を確保するため、山に広大な草刈り場があつた。草刈り場がなくなつたのは、昭和30年ごろという。先の鷺見さんの場合、反の田んぼに対して、5反の草刈り場をもつていたのだそうだいまも山の斜面にその名残を見ることができた。

さらに、田に水を入れる「水口」のところに、田の神様が奉られている田があつた。集落内にいくつかこうした田があるという。田の神様は、田の中の大きな石の上にのせられた三角錐の石だった。その側面に小さな穴があつた丸い穴が開いている。

から、全国棚田（千枚田）連絡協議会の会員として、全国棚田（千枚田）サミットにも参加し、全國の情報を集め、坂折の棚田のすばらしさを紹介してきた。

開発か保全か

実はそのころ、地元・坂折地区では6年前から構想が練られていた、ほ場整備事業への合意が、ようやく地区全戸とれたところだった。1997年3月のことである。だが、周囲から歴史的評価は高まつていく。教育委員会も、石積みの調査に取りかかった。

しかも、この棚田の中を江戸時代・苗木藩のメインストリート「黒瀬街道」が貫いていることも人々の関心を集めた。

こうした中、地区内で「この

開発か保全か

の思いなのだという。高齢化した農家にとつて「すばらしい文化だから、がんばつて耕作してほしい」という外からの単純な願いは、あまりに酷だ。しかし、整備をしたからといって、後継者が確約されていいわけではない。

現在、専門家による調査が行われている。坂折地区の棚田にあつた整備を見つけることが目的だという。いまのところ、2001年、ほ場整備がはじまる予定だ。

何を良しとするか。これは地域の人々が決めるんだ。ただ、あれだけの石を動かし、米をつくり続けてきた屈強な精神を受け継ぐ人々だからこそ、ここにしかできない棚田の未来を築いてほしいと願つてやまない。

参考文献：「石積みの棚田」（1999・岐阜県恵那市教育委員会）

田の中につくられたあぜ、「手あぜ」までもが石のところもある。そして、いくつもの石組みの暗渠。あんきよ棚田の下を通る、石で組まれた水のトンネル。「清水口」しみずぐちと呼ばれる、わき水を引き入れたり、横に穴を掘つてつくられた横井戸も、平べつたい板のよくな石で四角く組まれてある。しかも、水を温めるため、わざわざ暗渠をくぐらせ、一段とばして、下の田に水を入れる工夫が施された田もあつた。

石組みは巧妙である。坂折在住で石工職人の柘植静雄さん

案内をしてくださった恵那史文化研究会の小板清治さんと、文化財保護審議委員の安藤利道さんという。農家・驚見学すみさん(73歳)は、石取りに追われた生活を話してくれた。

やメンヒル（先史時代の岩の記念碑と考えられている）を研究する恵那先史文化研究会は、石の文化として坂折地区の棚田の研究にも取り組んできた。

「整備することが、30年来の夢だった。いつぺん、広くて大きな田んぼで機械入れた農業やつてから死にたい」。これが地元農家区は揺れている。

開発か保存か。いまも坂折地と語る。

オーナー制度もできるし、いろんなことが考えられますよ」

田の中につくられたあぜ、「手あぜ」までもが石のところもある。そして、いくつもの石組みの暗渠。あんきよ棚田の下を通る、石で組まれた水のトンネル。「清水口」しみずぐちと呼ばれる、わき水を引き入れたり、横に穴を掘つてつくられてきた人々の不屈の精神を見る。ようだつた。この地の人々は何代にもわたつて、石を取り除き、積み続けてきたのだ。

「ここは、土の中に石があるのでなく、石の中に土があるという感じでしよう。」

これはペトログラフと呼ばれる先史時代の文字・記号といわれている。坂折地区をはじめ、近くの笠置山には、こうしたペトログラフが彫られた岩や石が多く残っている。

石積み棚田を生かし、地域活性化に活用できるのではないか」という意見をもつ人も現れた。地区の柘植順さん（51歳）は、「ここは、高山一下呂の観光ルートの延長線上にありますから、近くの体験宿泊施設も活用して

「日本の棚田百選」決まる!!

農林水産省では、7月16日に「日本の棚田百選」選定委員会を開催し、7月26日、日本全国の中から117市町村、134地区を「日本の棚田百選」として選定した。8月3日には、農林水産省で、認定書の授与式が行われた。授与式では、松下政務次官からの「新しい日本の行政の中で、新農業基本法ができるまで、中山間地域における棚田が、大きな役割を果たしていることから、農林水産大臣として強い意志を表していくこと、大臣の名で認定書を出すことにしました。

農林水産省では、7月16日に「日本の棚田百選」選定委員会を開催し、7月26日、日本全国の中から117市町村、134地区を「日本の棚田百選」として選定した。8月3日には、農林水産省で、認定書の授与式が行われた。祝賀会では、中川農林水産大臣があいさつの中で、「日本の棚田百選」を選定するにあたり、各棚田を有する省も総力をあげてこの棚田保全、そして日本の農村空間の維持発展のために全力をあげて頑張っていきたいと思います」という言葉を残され、各棚田を有する地域を勇気づける認定となつた。棚田の新しい未来への一歩が踏み出されたといえるであろう。

農林水産省では、7月16日に「日本の棚田百選」選定委員会を開催し、7月26日、日本全国の中から117市町村、134地区を「日本の棚田百選」として選定した。8月3日には、農林水産省で、

増やしません。未来永劫21世紀、22世紀も百だけで終わりです。みなさまも誇りをもつて、棚田の維持・保全を努めていただきたいと申し上げます。(以下略)とあいさつがなされた。

第5回 全国棚田(千枚田)サミット

1999.9.18(土)~9.19(日)三重県紀和町にて
サミットプログラム詳細決定!!

18日	9:00~10:00	全国棚田連絡協議会理事会
	10:30~11:30	全国棚田連絡協議会総会・首長会議
	13:00~14:00	講演「棚田保全の役割」 講師: 松阪大学助教授 寺口瑞生氏
	14:10~17:00	「ふるさと探検」
	17:00~20:00	「北山川で語る交流会」
19日	9:00~ 9:20	開会式
	9:25~10:00	事例発表 福岡県浮羽町、丸山千枚田保存会
	10:10~12:00	パネルディスカッション パネラー: 前紀和町長・中浦敏夫氏、 丸山千枚田保存会前会長・北富士夫氏、 福岡県浮羽町長・堀 万治氏、 千葉県鴨川市・小原涼美氏
	12:10~12:20	コーディネーター: 三重大学教授 谷山鉄郎氏 共同宣言採択
	12:20~12:30	閉会式

Books

『日本の原風景・棚田』

棚田学会準備グループ編 ふるさときゃらばん発行 定価1050円(税込)

「棚田学会」設立を機に棚田学会準備グループで、棚田に関する研究やレポートをまとめた。全国棚田サミットの第1回目から現在もわかる。申込・問い合わせ: ふるさときゃらばんTEL042-381-6721



『棚田はエライ』

—棚田おもしろ体験ブック—

ふるさときゃらばん企画 新潟県安塚町監修 石井里津子編著 農文協刊 定価1700円(本体価格1619円)

小学校4年生以上から大人まで、米づくりから生態系、文化、環境保全の役割、現在の活用まですべてがわかる1冊。教育現場では教材としても使える。棚田の入門書。

Information

連続講座「棚田」受講生募集!

主催: 棚田支援市民ネットワーク 棚田フットワーク
会場: 東京・表参道新潟館・ネスパス

棚田支援市民ネットワークでは、月1回(18:30開場、講義19~20時、その後質疑応答など20:30終了)に、表参道新潟館・ネスパスにおいて、棚田の連続講座を4月から開講している。専門家を招いての棚田の多面的機能を学ぶことができる。

受講料: 1学期分3回1500円。募集人員: 50人(当日でも可)

問い合わせ: 棚田支援市民ネットワーク TEL: 03-5261-4334

棚田フットワーク TEL: 025-285-5511(内線2904倉本)

なお、棚田支援市民ネットワークでは、保全のための活動を行ってみたい人などを募集している。

月 日	講義タイトル	講 師
9月16日(木)	第4回「日本人の原風景と棚田」	日本農村風景研究所 勝原 文夫
10月21日(水)	第5回「棚田の米」	大提灯米穀店主 中島 哲
11月20日(土)	第6回「棚田の石垣の歴史」	石垣を讀める会 佐々木卓也
1月19日(水)	第7回「棚田保全への取り組み」	農水省構造改善局 新田 康二
2月16日(水)	第8回「地域づくりと棚田」	農業(松之山町) 田中富士雄
3月16日(水)	第9回「棚田を守る-環をつなぐために」	棚田ネットワーク 高野 光世

編 集 後 記

「棚田パノラマ体験展」がようやく終了しました。さまざまな反響があるようで、参加自治体や関係団体は、まだ、問い合わせに応対しているようです。さて、今回、ライステラスは特別にページ増で、表と裏からはじまるようにしてあります。右からは、「棚田パノラマ体験展」記事がはじまり、左(裏表紙)からは、会員による活動報告となっています。交流の際の情報としてご活用ください。お忙しい中でのご協力、ほんとうにありがとうございました。前号、誤字がありました。すみません。p5南有馬町記事、上から8行目、誤「精算」→正「生産」、p7最下段、終わりから3~2行目、誤「地元農家の方」→正「地元農家の肩」、p8新しく会員になったみなさま、誤「新潟県古川町」→正「新潟県吉川町」。たいへん失礼を申し上げました。

石井里津子

会員募集中

全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

新潟県安塚町役場まちづくり振興課

新潟県東頸城郡安塚町722-3
TEL 02559-2-2003 FAX 02559-2-3505

新しく会員になったみなさま

正会員〈自治体〉 宮崎県五ヶ瀬町 宮崎県日之影町 富山県氷見市 佐賀県富士町
正会員〈団体〉 (株)中島美雄商店
正会員〈個人〉 東京都/松本 弘
賛助会員〈個人〉 東京都/島崎民子

会員からの活動報告

1998年～1999年前半期の棚田をめぐる活動報告と今後の活動予定

(*アンケートにお答えいただいた方の分のみ、要約して掲載しております。
なお、とくに活動がないと記載されていた方の分は、省略させていただきました。)

【自治体会員】

長野県更埴市

'98年は、「棚田貸します制度」を50区画実施。田植え、草刈り、稻刈り等をオーナーとともに実施した。'99年も同内容で実施中。9月下旬、稻刈りと同時に案山子コンクールを行う予定。

新潟県松代町

1人の耕作放棄が、棚田全体を崩壊させることから、現在、集落協定等を強く推進し、保全と付加価値の方策を考え、準備中。

新潟県松之山町

'98年は、田植えツアーや草刈りツアーや稻刈りツアーやを実施。'99年はそのほかに、棚田支援市民ネットワーク及び棚田フットワークを受け入れ、荒廃しそうになった棚田を地元農家の指導を受け、耕作。9月には、ブナ林と棚田保全についてのワークショップを計画している。

新潟県大島村

第4回棚田サミット、棚田パノラマ体験展への参加のほか、地域への単純休耕（耕作放棄）防止への呼びかけ。今後は、棚田保全についての意識啓発を行っていく。

石川県七尾市

写真専門家に依頼し、市内棚田地域農業の写真撮影を行った。今後は、棚田米の契約栽培、棚田学習体験活動を行う予定である。

石川県輪島市

'99年は、「地球環境米・米フォーラムin輪島」を開催。5月には高円宮親王殿下、47カ国駐日大使等、約1000人が田植えに参加。

8月には「とんぼ田んぼ・子供体験学習プログラムin輪島」も開催。(財)千枚田景勝保存基金では、あぜ塗り、代かき、草刈り、稻刈り、脱穀などを連合石川・JAおおぞら・北國銀行・オムロン・フィールド・エンジニアリング・町野高校・市職員が参加して実施。そのほか、耕作助成金を交付。

愛知県鳳来町

'98年1月「鞍掛山麓千枚田保存会」設立。三重県紀和町丸山千枚田視察。第4回全国棚田サミット参加。棚田地域稻作生産性調査及び、千枚田現状測量調査を委託。'99年6月には四谷地区千枚田保全整備事業計画調査委託。今後は、「鞍掛山麓千枚田保存会」活動支援のほか、農道整備を行う予定。全国棚田サミットにも参加予定。

三重県紀和町

'96年からオーナー制度を開始しており、'98年は95件398名が参加。'99年は110件445名が参加している。第5回全国棚田サミット開催地。

三重県飯南町

棚田サミット等研修会への参加。棚田百選へ応募し、選定された。今後は、棚田保全管理についての調査・研究を進めるほか、広報等によりPRを推進していく予定。

京都府大江町

'97年に初めて「棚田農業体験ツアー」を実行委員会形式で実施、30haの休耕田を利用し、酒米を栽培した。'98年度からは、農業体験ツアーや棚田オーナー制度の2本立て。体験ツアーやは、田植え、稻刈り、交流会が主な内容。毎年実施を計画しており、都市と農村の交流を重視し、秋の運動会にも参加してもらう予定だ。

そのほか、農村景観の保全と農作業の効率化を目的とした「水車小屋」の復元、散策路の整備などを行い、畦畔管理の省力化のため、グランドカバー植物の植栽も行った。こうした中から一家族であるが、定住希望者が出てきた。今後、集落ぐるみの話し合いを基本に

- 1)農村景観、地域の文化・産業を大切にする。
- 2)都市住民や若い人のニーズを把握する
- 3)都市住民や町外流出者の受け入れ体制をソフト・ハード両面から整備する。

村に子どもたちの声が響き渡る賑やかな祭りを復活させようとしている。

兵庫県一宮町

来る10月11日に恒例の「棚田を守り、地域を活性化させよう」と石垣まつりが行われる。いも掘り体験をはじめ、もちまきや有機野菜の販売などが行われる。このまつりは、山田集落に住む人たちが力を合わせて企画から運営を行い、町の内外から多くの人たちが訪れる。

兵庫県加美町

'98年、オーナー制度実施。20区画に47件の応募。棚田整備検討委員会（メンバーは、大学教授、地元棚田保存会、棚田オーナー、都市住民、新聞社）を3回開催し、棚田を貴重な資源としてとらえ、整備工法の基本方針を作成。

'99年も20区画のオーナー制度実施。田植え、草刈り、そば植えなどを行った。7月25日には、草引き作業、かかしづくり、マンネン草挿し木、あまごつかみを実施。神戸大学生が棚田ボランティアとして参加、地元子供会との交流会も行っている。

9月26日には、稻刈りと棚田コンサートを行う。10月11日は脱穀と収穫祭、10月24日はマンネン草植栽とそば収穫、その後、オーナーへのわら細工教室、そば打ち大会を予定。

兵庫県村岡町

補助事業により、保全すべき棚田に一定の条件（傾斜1/20、概ね1haの面積等）を設け、調査及

び、地域の指定を行う（指定地域23集落／54集落）。'98年より指定された地域ごとに5年間の保全計画を策定すると同時に棚田保全会等を結束、活動費を交付するとともに保全活動を行う（16集落／54集落）。

また棚田の放棄田、休耕田に歯止めをかけるべく、受託、賃借の推進を行い、受託者に補助金の交付を行う（16集落／54集落）。さらに、総合的に棚田を守る観点からハード事業も推進し、水路、農道等の整備を行う（2集落／54集落）。

今後は、指定を受けた23集落中、残り8集落の計画策定及び事業の導入を行うとともに、現在、事業を行っている集落については、計画に沿った保全活動、特産品の開発、交流事業を行うよう推進する。

奈良県明日香村

'98年1月、オーナーとともに綱掛け神事等を見学し、2月にはオーナーに「都市と農村の共生をめざして」を発表してもらう。4月、お花見・オーナー会設立、棚田ハウス裏にかまどとバーベキュー施設を製作。25日には、棚田フォーラムを開催。観客300人が参加。29日の恋華まつりには200人集客。5月、苗代づくりほか、22日、フィールドワークショップ「明日香から21世紀を展望する」開催（日本環境学会第9回大会プレイベント）。

6月には、田植えと休耕田に水生植物植栽、螢のタベ実施。7月、草刈り、ジャンボ案山子づくり。8月、夏休みイベントの実施、草刈り、枝豆収穫祭等実施。9月には、村民体育大会に参加し、19～23日に彼岸花祭りで、茶屋などを出店。9月10月は、稻刈り・芋煮会・レンゲ種まき・など。11月脱穀・収穫祭。

'99年の棚田オーナー会は、棚田部（棚田ハウスの管理・たんぽ企画等）、菜園部（はたけ管理・はたけ企画等）、遊部（サイクリング・レンゲ・ホタル・どろんこ遊びなど）、自然部（竹の子掘り、竹楽器づくり、山歩きなど）、広報部（ホームページ・すてきマップ作成）にわかれ、'98年同様に活動を展開中である。

'99年1月には、炭焼きをオーナーと地元の有志で実施。4月には、明日香の夢市にて販売も。そのほ

か、7月には、地元集落・稻瀬盆踊りが45年ぶりに復活。オーナーも10出店した。8月には、流しそうめん大会も行った。

今後は、人材バンクの増強（現在70名）を図り、放棄地の管理や荒廃した山林の後片づけを行う。また、スキトラストや景観スペースオーナー（農地をガーデニング等庭のない人たちに提供）等の方式を強化する。また、オーナーが取り組んでいる文化的事業を定着させ、産業化を図る。（クラフト・染色）

和歌山県清水町

本年「日本の棚田百選」に選ばれた「あらぎ島」において、「98年度から町、JA、あらき島景観保全保存会により、稻作体験を実施。「96年度に中山間ふるさと水と土保全モデル事業（県営事業）による園内整備、また'98年度に小規模土地改良事業による耕作道拡幅。「96年に「あらぎ島景観保全保存会」を関係農家6戸で設立し、耕作の維持及び、景観保全に努めている。

稻作体験等、都市との交流を行い、また棚田のもつ機能等の学習の場として、山村住民と都市住民がともに利益を享受できる取り組みを行う予定。また、耕作維持のため、基盤整備を行い、省力化を図っていく。

島根県三隅町

'98年12月、棚田地域等緊急保全対策事業導入。「99年、保全推進について調査研究中。また、特産品（ツルウメモドキ）の研究・開発を行っている。今後は、オーナー制度の導入や保全組織の確立を検討中である。これからがたいへんだが、頑張っていきたい。

岡山県中央町

できるだけ自然に配慮しながら、棚田地域等緊急保全対策事業の導入を行い、農道、水路、ほ場整備事業を行っている。また、棚田を理解していただく事業として、大阪中央区の米消費者120名による田植えツアー、中国四国農政局新採用職員の初任者現地研修として、5haの手植えによる田植え体験等に積極的に取り組み、交流を深めている。

今後、「日本の棚田百選」の認定をいたいたい地区については、荒廃防止を行う事業の一環として、畠畔に彼岸花等の植栽を行い、棚田の景観により一層の季節感を加える事業の推進を新たに起こしていく。また先進地域及び都市との交流事業の推進を図っていく。

岡山県佐伯町

町内の奥塩田、田土地域は、岡山県の美しい村づくり事業の指定を'93年度、'94年度に受け、各種事業を展開。とくに奥塩田地区においては、小学生を対象に情操教育の一端と位置付け、6月には低学年の児童にはサツマイモ苗の植え付け、高学年の児童には、田植え、そして10月には、それぞれ芋掘りと稻刈りの体験をあぜ道交流事業として毎年実施している。

山口県油谷町

6月6日に、町内外の棚田ボランティア約50人が、田植え1000m²3枚とコスモスまき3500m²18枚を実施。昼食としてコシヒカリおにぎりを配布。午後は町内散策を行った。

10月17日には、稻刈りとハゼ掛け、コスモス鑑賞を実施し、ボランティアとの交流とイベントを予定している。

徳島県井川町

第4回全国棚田サミットに参加、棚田保全のための調査を実施。「日本の棚田百選」に認定。今後は、棚田マップ（パンフレット）作成及び、休耕田や耕作放棄等、調査・研究を行う予定。また棚田景観整備や棚田でのイベント祭りを検討中。

香川県財田町

戦前の食糧増産時における開拓によってできた、当町の棚田の多くは、水不足が原因で山に戻った。雨の少ない財田町では、現在の田畠を守ることが一番重要問題である。このため、棚田も水の問題を解決できるよう話し合いを多くもっていきたい。

愛媛県城川町

「日本の棚田百選」に城川町田穂の「堂の坂」が認定された。ここをモデルに棚田をPRしていきたい。

高知県香北町

補助事業の導入による農道の設置を行っている。また志願農場（オーナー制度）の設置を行っている。今後は、志願農場の拡大を予定している。

高知県梼原町

千枚田オーナー制度の継続。「99年5月16日に、オーナーと地元青年団で、千枚田泥んこバーレーボール大会を行った。10月には、小学生親子による稻刈り体験ツアーを計画している。

福岡県上陽町

本町は棚田が点在しているが、今後棚田崩壊による悪影響が出てくると思われる。全国的な棚田保全の動きを知りたい。

福岡県星野村

'98年12月、広町と上原地区棚田保存実行委員会発足。「99年3月21日棚田保存会をはじめ、地域のボランティアグループが棚田に彼岸花の球根を植栽する。3月25日、広町・上原地区棚田保護条例を公布。3月30日、棚田シンポジウム開催。7月7日、2000年全国棚田サミット実行委員会設立総会（星野村・浮羽町共催）開催。

今後は、ボランティアによる棚田の草刈り、2000年棚田サミット開催のため、立看板の設置を行う。

福岡県浮羽町

棚田オーナー制度、ふるさと水と土保全事業の実施、棚田応援団名刺の作成。「99年2月には「第7回美しい日本のむら景観コンテスト」で「むらづくり対策推進部長賞」を棚田と彼岸花の景観が受賞したほか、「99年4月、「棚田inうきは彼岸花めぐり」が「第3回ふるさとイベント大賞」優秀賞を受賞した。今年7月には、棚田サ

ミット実行委員会を発足。9月15日～19日に「棚田inうきは彼岸花めぐり」を開催し、「棚田を守るために」子どもポスターコンクール（募集期間'99.9.15～10/22）などを開催する。

佐賀県西有田町

全国棚田（千枚田）連絡協議会がこれまで取り組んできた棚田保全活動の成果として、農林水産省が創設した棚田地域等緊急保全対策事業に棚田の耐久性畦畔工（延50km）や農道・用排水路の整備を計画し、9地区（事業費6億9千万円）の採択を受け、来年度の完了を目指して実施中である。

また、2000年度には、現在取り組んでいる棚田米オーナー制度を側面から支援する施設として休憩施設を整えた管理棟を中山間地域総合整備事業で整備する予定。今後、これらの施設設備が実現すれば、これまで以上の棚田米オーナー制の取り組みや子どもたちの教育の場・都市住民との交流の場としての棚田活用を推進していく。

佐賀県相知町

'98年「蕨野花園」にコスモス・レンゲを植える（1.5ha）。春に棚田での田植えを都市部住民と行う。秋に棚田での稻刈りを都市部住民と行う。「99年も同様に田植えを行い、「蕨野花園」にヒマワリを植栽した。

今後も花園の充実を目指す。また都市部住民との交流も合わせて実施しながら蕨野の棚田米の知名度をあげるべく努力する。棚田百選に選ばれ、棚田景観を充実させるべく、その保全に努力する。その方策も集落内で検討する。

長崎県千々石町

今後、島原半島広域観光ルート形成魅力アップ事業において、棚田展望台建設予定。休耕地（荒れ地）の作付け対策（中山間基金利用）を予定している。

長崎県南有馬町

'99年7月「棚田パノラマ体験展」出展、「日本の棚田百選」に本町谷水地区の棚田が認定される。「98年度棚田地域等緊急保全対策事業

により排水路450m、農道舗装200mも整備。今後は、棚田の保全事業等により、遊休農地の減少に努めたい。

熊本県矢部町

'96年から昔地区で迫田オーナー制度をはじめて、'99年度は16組のオーナーが米作りのほか、野菜やソバ、シイタケづくりを楽しんでいる。また、'99年春には地元の米を使って、地元酒造会社に酒造りを依頼、720ml入り1200本をつくったが、2ヶ月で売り切れた。今後は現在協議中。

熊本県水俣市

荒廃していた水田を耕起し、花植栽除草等の維持管理や石積み内の除草、遊歩道の整備を実施した。また、地域の交流会や花ツアーや企画し、2日間のべ130名が参加した。今後、花菖蒲の株分け植付け、ハーブの栽培、サラダ玉ねぎの植付けを実施し、栽培面積の拡大を図っていく。また、野菜の栽培を実施し、販売を図る。

宮崎県日南市

'98年5月、坂元棚田活用推進協議会総会開催、7月、推進協議会による先進地視察(福岡県浮羽町)、9月、第4回全国棚田サミットに参加、10月オーナー制度検討会、11月、坂元棚田収穫祭、「99年4月、棚田まつりを実施した。

今後は、棚田まつりを開催し、定着させていく予定。全国棚田サミットに参加予定。

鹿児島県栗野町

'98年6月、栗野町産直交流体験・田植え60名参加。7月、幸田棚田米現地検討会・田植えさのぼり。9月、全国棚田サミットに参加。10月、鹿児島県畜産共進会で棚田米の販売、栗野町産直交流体験・稻刈り30名参加、同交流・稻落とし12名参加。11月、同交流・収穫祭29名参加。12月、福岡市「ふるさと産直市」で棚田米を販売のほか、「亀萬酒造」に棚田米を出荷(152俵)。「99年も同様に展開中である。

【団体会員】

鶴川市リフレッシュビレッジ推進協議会

'98年4月、「大山千枚田」看板設置のほか、トイレ設置。棚田支援市民ネットワークとふるさときゃらばんとの交流を深め、田植え・草取り・稻刈り・脱穀から収穫祭まで年間を通じて交流を図った。12月には、「東京に一番近い棚田(千枚田)の里・大山千枚田からのメッセージ」をタイトルに鶴川における第1回の棚田シンポジウムを開催し、併せてアトラクションとしてふるさときゃらばんのミュージカルを上演し、地域興しに一石を投じた。

'99年度には、昨年同様、田植え・草取り・稻刈り等を実施するほか、「棚田オーナー制度」導入開始と施設整備の準備を行っている。活動として、復田ならびに景観の維持・整備、農業体験交流の受け入れ拡大、「棚田パノラマ体験展」等イベントへ参加による知名度の向上、会報の発行、清酒「大山千枚田」発売などを実施。そのほか、大山千枚田写真コンテストや写真展を予定している。

全国土地改良事業団体連合会

'98年3月、パンフレット「棚田地域保全対策について」発行。全国都道府県へ送付。5月、イベント「更級紀行 棚田DE田植え&更級蕎麦」実施。9月、棚田サミット(安塚町)出席。入会推奨。「99年5月には「棚田フォトコンテストII」及び「棚田パノラマ体験展」後援。全国都道府県へ開催PR、パンフレット等送付。「棚田フォトコンテストII」に全国土地改良事業団体連合会会長賞創設。6月、イベント「更級紀行 棚田DE田植え」実施。7月「棚田パノラマ体験展」ヘジオラマ出展。そのほか、全土連から全国へ発信するインターネット・季刊誌等へ随時記事掲載。9月には棚田サミットに出席。

今後も全土連としては、可能限りこれまでのような活動をしていきたい。あたりまえすぎて、あまり話題にならないのが、実際に水路などの施設を管理したり、耕作したりしている農家の人たちや土地改良区の活動。暖かいご支援をお願いします。

名月会(更埴市)

更埴市姨捨「棚田貸します」オーナー制度の管理等を受託している。'98年、夢21・地域づくりフォーラム実行委員から「信濃の国づくり大賞」を受賞。10月4日、「棚田貸します」オーナーの稻刈りを実施。約350人が参加し、オーナーの方に稻刈りにチャレンジしていただいたあと、みなで地元のおやきなどをおいしくいただいた。

'99年6月には、長野県農業協同組合連合会創立50周年を記念してアグリネチャー基金が創立され、「自然ふれあい環境整備事業」から助成金30万円の贈呈を受けた。

長野県土地改良事業団体連合会

'98年5月「更級紀行・棚田・そば打ち体験」の実施に後援。10月には「棚田で稻刈り体験」を後援。「99年5月、「更級紀行・棚田DE田植え体験」の後援。「99年10月「棚田で稻刈り体験」を後援予定(場所は、更埴市姨捨地区)。(この活動は「長野県地球人会議」として活動している)

(株)新潟ケンペイ

'98年9月より棚田でそれたお米を「天水田のお米」を商品名に全国販売をしている。「棚田」「天水田」という言葉を知らない方々へ認知をしていただき、そこでそれたお米の価値(治水としての水田、山から平野へ流れる水の大切さなど)を伝え、ファンを増やしていく。今後、「天水田のお米」を通じて、販促用のポスター・パネル、チラシ類を販売店に配布しての活動をしていく。

恵那先史文化研究会

恵那先史文化研究会は、先史研究をテーマにしており、先史時代の遺跡・遺物それが発する生活や心や疑問は、現代に生きる私たちの課題であるという立場をとっている。この視点から恵那市中野方町坂折の棚田を見ると、この地域には、先史時代の遺物として打製石斧が多く、石の中に土があるといわれるほどで、棚田の石垣は、石を生かした生きる技術であり、「石との共生」の道ととらえている。この考え方で、棚田の保護・

保全の問題をとらえ、水源地である権現山の湿地の調査、江戸時代苗木藩のメインストリート「黒瀬道」が坂折の棚田を貫いていたことのまとめ、伝承の掘り起こし、見学者の案内をやってきている。

棚田研究として、石積み棚田「恵那市中野方町坂折地区水田現状調査報告書」の現地調査とまとめに協力。発行は、恵那市教育委員会2000円。

今後は、棚田の生かし方を農業政策だけでなく、広い立場から学習していき、坂折棚田整備委員会に生かす。また、石積み技術者「黒鍬」の地域調査を行っていきたい。そして、坂折の人々と見学に訪れる人々の、心ある交流が進むように努力していく。

岡山県土地改良事業団体連合会

21世紀おかやま農林水産業活性化対策本部(岡山県土連、構成団体)主催「棚田保全のつどい」を'98年8月に米南町に参加、11月に美甘村に参加。「99年7月「棚田パノラマ体験展」に中央町・岡山県・県土連共同出展。今後も「棚田保全のつどい」にひきつづき参加。

福岡農産(株)

棚田米(熊本県球磨郡なかくま農協産)の普及(スーパー、外食産業バイヤーなどへ)。弊社ホームページ(<http://www.rice.co.jp>)において、棚田米の紹介および全国棚田連絡協議会の情報発信。今後は、「棚田パノラマ体験展」のミニ版を弊社取引先などにアピールし、取り上げていただく活動を予定。また、棚田米の産地を増やし、シリーズ化して商品提案できるような活動推進。

佐賀県土地改良事業団体連合会

'98年度より本会が行っている「水と土と農」を考えるキャンペーン事業の中で「親子農業実感ツアー」を'98年5月、西有田町岳地区において実施した。非農家小学生親子200人参加。

鹿児島県土地改良事業団体連合会

'99年5月25日、鹿児島県において「棚田等保全協議会かごしま」

を設立。今後は、この「棚田等保全協議会かごしま」を中心にして保全ネットワークなどの活動を行う予定である。

【個人正会員】

手塚信利（神奈川県川崎市）

今後、バイオマスが認知されたら棚田への水の汲み上げなどで活用するテストをしてみたい。

吉田勝之（長野県長野市）

更埴市おばすで、もち米づくりのほか、生物の調査、長野市内の子どもたち40名と探索を行った。第3回国際環境ミーティング「田んぼ生態学」で「棚田の生態系」と題し、スライドと研究発表を行う。また、おばすで棚田で案山子コンクール実施中。棚田米とその米を育てた水を使い「もちつき大会」を行い、資料配付。

今後の予定としては、棚田での米づくりを通じ、棚田の保全・棚田の必要性についてより多くの啓蒙活動をする。子どもたちと棚田の動物・植物を観察して、棚田の現状を資料としてまとめ。おばすで棚田で、田植えの方法である「投げ植え」を実験してみる。

富井富士子（旧姓今野）（新潟県高柳町）

'93年より新潟県高柳町に住み、'94年より、町おこし施設「じょんのび村」の総務部長等を歴任後、「98年秋よりフリーとして、棚田の残る経済や物質文明から取り残された町の健全な暮らしどと、救う鍵のあることを、普及する活動を行っている。合わせて、過疎・豪雪・中山間地域の地域おこしアドバイザーとして支援活動を行っている。今後、高柳町に暮らすことを感じることのできた気づきや、私の想いを本にしようと考えている。

平石 博（新潟県越路町）

8月13日現在、新潟では水不足による被害が出ている。棚田を10ha耕作している私は、毎日たいへんな状況だ。ポンプを使って水を上げ、水のないところでは水をくんで水運びをしている。手のかかる世話のやける田んぼですが、がんばります。

犬塚雅敏（静岡県浜松町）

ECHIGO棚田センター、棚田ファンクラブに加入した。しょんじ塾（里山再生ボランティアグループ）で、荒廃した棚田の復田計画に参加。近県の棚田農家と交流。今後、一人でも多くの仲間を増やすようPRしたい。静岡県内、とくに浜松市近辺の棚田の実態調査を検討中。「中山間地農業に占める棚田の役割」のテーマの研究等を考えている。

横山明人（兵庫県和田山町）

活動らしいことは、残念ながらできず、ライステラスを読み、職場内に回観するぐらいだった。今後も情報はどんどん収集していく。

河野寛美（広島県広島市）

棚田ネットワーク中国 事務局。「98年11月、棚田ネットワーク設立発起人会、「99年6月5日、「棚田ネットワーク中国」設立（8月10日現在、会員54名）。「棚田写真展」「棚田フォーラム」を同時開催。6月6日、「地球皮むき交流会」（棚田草取り）に会員参加。6月19～20日、島根県柿木村での「棚田を活かした地域づくり」フォーラムに会員参加。8月には広島県国和町大草地区に関する「棚田保全について提案」を町に提案。

今後は、広島県国和町大草地区と筒賀村井仁地区の棚田保全及び、地域活性化活動に共催及び、参加支援をしていく予定。さらに中国5県の棚田に関する基礎資料の収集開始。

澤田俊明（徳島県徳島市）

'98年11月、土木学会において、棚田空間におけるアフォーダンス特性に関する研究を発表。「99年10月には、上記研究の論文発行予定「空間のアフォーダンス抽出方法とその調査事例について」（澤田俊明ほか、土木学会・土木計画学論文集）。

'99年1月には、徳島県上勝町において、棚田に関するフォーラム「棚田の景とアフォーダンス」への関与・報告。現在、徳島大学工学部の棚田研究グループとともに、棚田保全戦略に関する調査・

研究を行っている。（対象地区：上勝町）。（＊アフォーダンスとは、「環境が動物に提供する行動や行為を誘発（アフォード）する情報」と澤田氏らの論文において定義されている）

中島幸彦（高知県奈半利町）

奈半利町で「田園空間博物館」事業が立ち上がり、美しい棚田を見てもらおうと、用水パイプの整備や景観整備が進められる。（報告まで）

西村茂則（高知県梼原町）

全国で、棚田をめぐる「うねり」はたいへん大きいものがあり、第1回棚田サミット担当者として、非常にうれしく思っている。いまは仕事に追いまくられ、梼原町の千枚田へも応援に行けず、「心」の応援団で辛抱中。

萬田正治（鹿児島県鹿児島市）

鹿児島県栗野町幸田地区に江戸時代からの棚田があり、その保存と消費者交流を役場が熱心に取り組んでいるので、それに協力・参画している。棚田には、アイガモ農法がピッタリなので、アイガモ農法の研究者として、幸田地区棚田におけるアイガモ農法にも取り組んでいる。

現在、ミャンマー、ベトナム山岳地帯の棚田におけるアイガモ農法で海外協力を実行している。今後とも「棚田におけるアイガモ農法の現状と課題」をテーマに、取り組んでいきたい。

【賛助会員】

木戸幸子（神奈川県横浜市）

「棚田市民ネットワーク」の活動として、運営ミーティングや例会、「98年3月に行った「棚田集会」等の準備・運営などに参画したほか、「98年4月、鴨川・大山千枚田田植えバスツアーに参加、7月鴨川市草取りに参加。8月鴨川・大山千枚田稻刈りバスツアー、9月第4回全国棚田サミット参加、11月鴨川收穫祭に参加したほか、棚田連絡協議会関東ブロック個人会員の集いに参加。12月には、鴨川市・棚田シンポジウムに参加。

'99年1月、棚田連絡協議会個人会員拡大世話人会に参加。6月には、ECHIGO棚田センター企画「佐渡・上江用水路補修＆草取り作業」、鴨川市草取りに参加。

今後も「棚田ネットワーク・東京（棚田支援市民ネットワーク）」と棚田連絡協議会賛助会員、棚田学会の活動に参加していきたい。

井澤忠蔵（徳島県徳島市）

徳島県の県庁、県農協連のOBという人間関係のもとで、棚田の保全についての啓蒙活動（県内に棚田の重要性を強調）に専念することが役割と考えている。活動として、フォーラム・後援会などに出演、雑誌・新聞などに寄稿、テレビ出演等。

今後も引き続いている、県内を対象に棚田問題をアピールしていきたい。とくに農政研究団体の月刊誌・農政クラブ情報と地元新聞の経済コラムを重点にフォーラムなどのパネラー・講師も見込まれるので、活動の場とする計画。

松岡正宣（高知県高知市）

地球人会議活動の一環として、棚田散策に参加した。事務局員として参加して、多くの人の感動をいただいた。今年秋には、第1回棚田サミット開催地でのウォーキングを計画している。

佐藤眞一（鹿児島県鹿児島市）

今年から本格的に九州の棚田の写真撮影を開始している。自分の現状・立場ででき得る行動として、ここ2～3年をめどに九州の主な棚田の実状を記録し、写真展・写文集の出版等を目標に、棚田保存運動に蔭ながら連帯できればと思っている。今回、棚田フォトコンテストに参加し、私の好きな熊本県球磨村の田植えの風景が入賞し、喜びとともににはげみとなった。

'99年6月までに取材した棚田スポット：福岡県浮羽町、星野村、熊本県矢部町、砥用町、矢部町、球磨村、水俣市、鹿児島県隼人町、栗野町、金峰町。今後の取材計画（秋の収穫風景）：佐賀県肥前町、玄海町、熊本県水俣市、球磨村、福岡県浮羽町、星野村、鹿児島県栗野町、隼人町、金峰町。